

福島に通うということ

2011 年秋、環境カウンセラーの研修会の控室で南相馬市の長澤利枝さんに出会った。津波と原発の被害から半年、首都圏の街は暗く重苦しかった。現地はこの比ではなかったろう。彼女は居住地の苦難を語った。

一度は現地を見ようと決め、翌年 4 月、新幹線福島駅から直通バスで 2 時間の道のりを南相馬市に出かけた。鎌ヶ谷からは松戸へ出て原町まで常磐線特急を利用すればよいのだが、福島第一原発が常磐線の運行を阻んでいた。

南相馬市では被災者の方々を元気づける行事が計画されていた。3、4 世代同居だった家族が仮設住宅に分散して住まう状況の中で、会場は家族の再会の場であった。また誰ともなく互いに消息を確かめる場でもあった。

長澤さんのお仲間が海岸方面へ車で案内してくださった。そこで見たものは悲惨な津波の痕跡と整然と分別された“がれき”であった。復興のめどもついていないこの時期、このようにきっちり仕分けられた“がれき”に南相馬市の強い意志、姿勢を見て感激した。

当時廃棄物等減量審議会委員を務めていたこともあり、鎌ヶ谷市クリーン推進課にお願いし 2012 年 7 月の環境展で被災地のようすを展示した。

以来福島の実状を見るため毎年出かけている。2013 年の再訪は 50 年ぶりという春の大雪に見舞われ動けず、2014 年はカウンセラー仲間が仕立てたバスでがれき置き場のその後を見ることができた。2015 年は全線開通した常磐道を高速バスとレンタカーを乗り継ぎ現地入り、2016 年 3 月は一日一便の直通高速バス（復興バス）に乗車した。さらに秋には避難解除に向け年度替わりから一日二便となった復興バスを利用、帰途は国道 6 号線を浪江からいわきまで南下した。車窓の外に広がっていたのは帰還困難区域のひっそりとした町並みであった。

継続して通うことで、なにが問題か分かってくる。被災地への共感と伝え続けることが私の使命かと思う。今後も現地の様子を記録し、発信を続けたい。

2018.12

環境省環境カウンセラー

倉田 智子

ひとのあかし

若松丈太郎

ひとは作物を栽培することを覚えた ひとは生きものを飼育することを覚えた
作物の栽培も生きものの飼育も ひとが ひとであることのあかしだ
あるとき以降 耕作地があるのに耕作できない
家畜がいるのに飼育できない
魚がいるのに漁ができない ということになったら
ひとは ひとであるとは言えないのではないか

「EC 活動と福島」

倉田 智子

1996 年初年度登録で環境カウンセラーになった。市民部門、自然系である。EC 千葉設立から 20 年経過し、その間理事として会務を担った時期もある。広報から活動紹介のお声がかかったので、EC 登録分野の範囲のほかに東日本大震災後の活動について書いてみようと思う。

20 km²の市域に、なんと水系が印旛沼・手賀沼・東京湾と複数ある鎌ケ谷市の水環境のおもしろさに魅かれてグループを結成、市内の川の始点を突き止め、流れを追った。調査報告書「川をたずねて」は 3 年後、鎌ケ谷市郷土資料館（鎌ケ谷市史研究第 12 号）に転載された。

以来取り組んでいるテーマはグループ名「かわ・水・みどり」そのままである。川と水は同じではないかと突っ込まれそうだが、川は流れる水、水は良質なものと捉えて欲しい。例えばホテルの保護は水の部分になる。これらが私の活動の根幹である。

2011.3.11 14 時 46 分 18 秒 この時、私は我孫子市の手賀沼親水広場・水の館にいた。手賀沼水環境保全協議会・水生植物再生活用事業検討委員会に出席するためである。3 階から手賀沼を見ていると衝撃的な揺れが来た。何が起きたのか一瞬分からなかった。すぐさま「外へ！」の呼びかけはあったが、動けない。ここは埋め立て地である。外へ出たら陥没か、倒壊か、と思うとエレベーター前にいた方が安全な気がした。

窓際のいくつもの水草の展示水槽から水がこぼれ、床は水深 3 cm 程になった。会議の開催待ちの間、なすすべもなく掃除を手伝う。ちりとりで水をすくい、バケツに入れる。モップでは追い付かない量だった。3 時過ぎ、会議は中止となり帰路を急いだ。手賀大橋を渡る手前で第二波の揺れが来た。橋が落ちたらどうしよう～県道の電線も電信柱の変圧器も、ゆらゆら揺れ、落下するのではと思うと恐怖であった。



鎌ケ谷市水系図



水の館と水草保存園

2011.10.4 ~ 5 EC 研修の際、EC 千葉は小角浩氏の主導の下、「生物多様性保全活動促進法と環境カウンセラー」のテーマで分科会を担った。私は日ごろの活動紹介として「鎌ケ谷の水環境の特異性、トンボで環境が判る～市民プールの取り組み、次世代に伝えること」などを発表した。研修には震災・原発被災地である南相馬市在住の EC、長澤利枝氏の現地報告があった。パネリストの控室で長澤さんから話を伺った。当日のこと、原発被災のこと、避難の様子、そして今。身に詰まされることがたくさんあった。

2012.4.15 お誘いにより南相馬市をたずねた。新幹線福島駅から高速バスに乗り換え、着いた会場は地元の方々でにぎわっていた。そこは大家族が離ればなれに暮らすようになって後の、家族のふれあいの場であり、誰ともなく震災後の無事を確かめる再会の場であった。

長澤さんのご配慮により津波の現場に案内された。一年が経過し、鉄塔の電線は外され、津波で打ち上げられた船も、家々も片付けられていた。それでも、どれほどの大津波だったかがわかる。海岸には分別された震災がれきの山があった。この時期がれきと言ったら、ごみピットの中の、なにもかも一緒くたになった光景しか思い浮かばなかっただけに、この整然とした「がれき」には驚かされた。現在は移動不可のがれきは将来復興資材として使用する という。被災地の現状を知ってもらおうと 7 月の鎌ヶ谷市環境展で展示を試みた。当時廃棄物等減量審議会委員を務めていたので担当のクリーン推進課に相談し、展示が可能になった。会期中には長澤さんが福島からお出かけくださっている。

2013.4.21 福島再訪。この時は 50 年ぶりという春の雪に見舞われた。福島駅へ向かう高速バスは全村避難の飯館村を通過する。旧村役場に常駐するパトカーの轍は繁く雪に残り、特産品の牛肉を扱うミートプラザは雪に覆われ、誰一人立ち入らない状況を示していた。



2013.4.22 雪の日の飯館村旧村役場

いいたてミートプラザ

2014.4.20 がれきは片付いていた。以来訪問の都度、写真を撮り、ファイルを作成している。鎌ヶ谷市には年に 2 度、展示の機会があり、このことは願ってもないチャンス～市民の方々に被災地を知ってもらえる機会である。長澤さんも又、毎回取材をし、独自のファイルを用意してくださっている。

「忘れないで ふくしま」の二人三脚である。



2012.7.10 鎌ヶ谷市展示「がれきを分別した町」

2014.4.20 南相馬市原町区 海岸沿い

南相馬市の環境カウンセラー長澤利枝さんとの出会いと、現地を歩き感じたことを記しました。作成したファイルは2012年6月から、年に2回の「環境展」に欠かさず、掲示しています。大多数の方は「福島出身なのね」とまづ言います。私は千葉県鎌ケ谷市に住み、関東からは出たことはありません。未曾有の天変地異でも、時間が経過したら、忘れ去られてしまいます。少しでも地域の方々に伝えていきたい思いがありました。以下は環境展出展申し込みの一部です。

活動目的

市民として、環境カウンセラーとしての視点から被災地の実情を広く訴える。南相馬市を拠点とする定点観測的な状況報告は長く続けることに意味があります。マスコミには取り上げられない、このような活動が重要と考えます。

当市に於いては「相馬野馬追」の公式ホームページにも掲載される「鎌ケ谷市民祭り騎馬武者行列」で福島県相馬地方とも縁が深く、展示により被災地の実情など、他人事ではなく、理解が広まることを予測します。

活動の実績

1. 2012年春 鎌ケ谷市環境パネル展 南相馬市を訪問して
2. 同年秋 鎌ケ谷市環境フェア展示「がれきを分別した町」
3. 2012～14, 17年 日経エコプロダクツ 全国環境カウンセラー連合会
4. 2013～2018年春秋 鎌ケ谷市環境パネル展・環境フェア展示
5. 2013～2015年 南相馬市において”相双地域づくりサポート行事“展示
6. 2013年9月 環境カウンセラー全国連合会「関東ブロック活動報告」
環境パートナーシッププラザ（渋谷区国連大学）展示
7. 2013年10月 環境カウンセラー全国交流会（於千葉市）資料配布
8. 2014～2017年 環境カウンセラー千葉県協議会総会時展示

環境カウンセラー千葉県協議会の応援を得て、長澤さんのレポートも展示しています。長澤さんは年に2度、テーマを定めて被災地を調査取材、結果をファイルにし、送ってくださいます。同じものはありません。

「セデッテかしま」での展示は、画期的で、大変うれしく、厚くお礼を申し上げます。



2018.10.13 鎌ケ谷市環境フェア



鎌ケ谷市 北村眞一副市長さんと